

2018年3月16日

JPA技術講習会のご案内

2018年度『圧入工法技術講習会』札幌会場

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

(一社)全国圧入協会は、(一社)建設コンサルタント協会のCPD認定プログラムとして、2018年度『圧入工法技術講習会』札幌会場を開講いたします。

主なプログラムは、「圧入工法設計・施工指針」解説、工法選定、さらにインプラント構造としての堤防・防潮堤、道路擁壁、橋梁について、圧入工法が採用となった経緯と施工事例を解説します。

圧入工法は、既に圧入された杭をつかみ施工するという原理の優位性から、地中に押し込まれた連続した杭によって粘り強い構造物を構築します。大規模地震に対して、堤防補強、液状化対策、高い壁高の擁壁工事に採用されています。また、圧入工法は硬質地盤、構造物近接、水上や傾斜地、そして橋梁下など様々な現場条件に対応できます。

国土強靱化に寄与する工法として、当講習会が活用できれば幸いです。

敬 具

記

- ◇主 催 : (一社)全国圧入協会
- ◇講習会名 : 2018年度『圧入工法技術講習会』札幌会場
- ◇開催日 : 2018年6月20日(水) CPDプログラム番号:201803140004 3.5単位
- ◇開催時間 : 講習会 13:30~17:00 (受付 13:15~13:30)
- ◇開催場所 : わくわくホリデーホール(札幌市民ホール) 第2会議室
- ◇申込方法 : 当協会Webサイトの圧入技術講習会からお申込みください。
Webサイト <https://atsunyu.jp/course/>
(初めてご利用の方は、Web利用者登録をお願いします。)
- ◇受講料 : 3,000円 お支払方法は、案内メールにてお知らせします。
※入金後は返金いたしません。
- ◇定 員 : 50名(定員に達し次第締め切ります。)
- ◇申込期限 : 2018年6月14日(木)
- ◇問合せ先 : (一社)全国圧入協会 事務局 西村・森脇
Tel. 03-5781-9155 (平日9時~17時、土日・祝祭日除く)
Email jpa@atsunyu.gr.jp

『圧入工法技術講習会プログラム』

1. 全国圧入協会について
2. 「圧入工法設計・施工指針」解説
3. 工法選定
4. インプラント構造物
 - 4-1 概要
 - 4-2 堤防・防潮堤の事例
 - (1) 硬質地盤クリア工法による海岸堤防
 - (2) 硬質地盤クリア工法による河川堤防
 - (3) ジャイロプレス工法による海岸堤防・防潮堤
 - (4) 鋼管矢板圧入工法による河川・海岸堤防
 - 4-3 道路擁壁の事例
 - (1) ジャイロプレス工法による道路擁壁
 - 4-4 橋梁の事例
 - (1) ジャイロプレス工法によるインプラント橋梁
 - (2) 鋼管矢板圧入工法による橋脚耐震補強
 - (3) ジャイロプレス工法による橋脚補強
5. 圧入工法による災害復旧・防災技術
6. 積算
7. 圧入原理の学術的探究「国際圧入学会(IPA)」
8. 質疑・応答

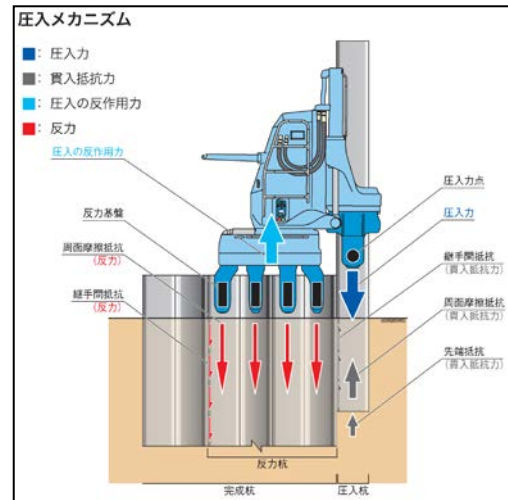
210分

※ 受講された方は、講習会終了後に講習資料（PDFデータ）を
当協会Webサイトからダウンロードできます。

【圧入工法の特長】

圧入工法はすでに打込まれた杭をつかんで、その杭の引抜抵抗力を反力とし、静的荷重で次の杭を地中に押し込む原理である。このため、振動や騒音が許されない市街地、傾斜地や水上施工、重機が入らない狭隘地、道路橋や高圧電線など上部に障害のある場所など、多種多様な現場条件を克服できる。

地盤条件によって単独圧入、ウォータージェット併用圧入、オーガ併用圧入、回転切削圧入の貫入技術を選択でき、硬質地盤にも適用範囲は広がっている。さらに、地震や水害などで地盤が緩んでも、地球と一体化した反力杭をつかんでいる圧入機は転倒の危険性は無く、安全かつ迅速な災害復旧工事を可能とした。



圧入メカニズム

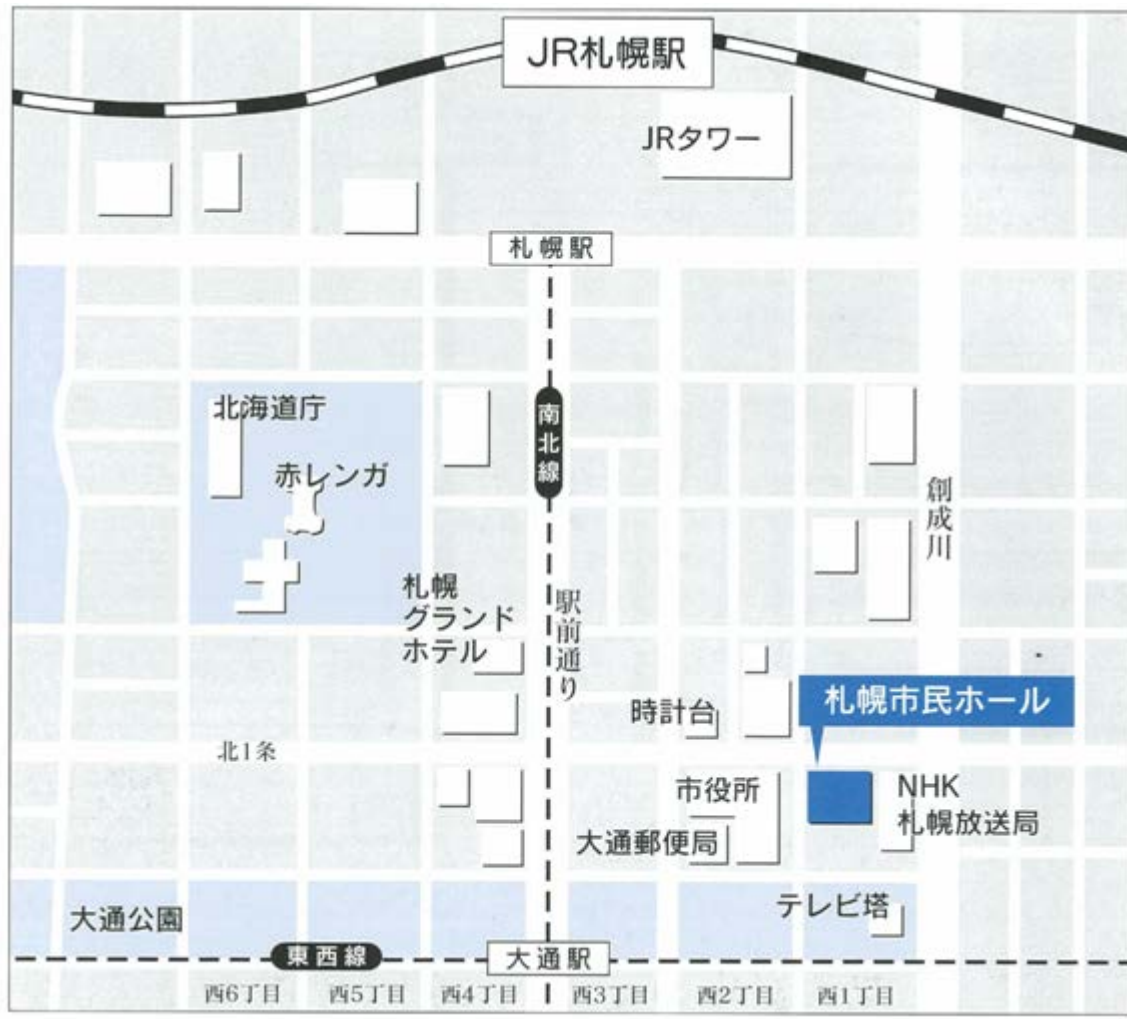


地盤条件による貫入技術



災害復旧や防災・減災工事の施工例

〔会場案内図〕



- JR札幌駅徒歩約 15 分
- 地下鉄東西線・南北線・東豊線の大通駅下車、31 番出口の正面
- お車の場合、駐車場はありませんので周辺有料駐車場をご利用下さい

◇開催会場： わくわくホリデーホール(札幌市民ホール) 2F 第2会議室
〒060-0001 北海道札幌市 中央区北1条西1丁目
Tel. 011-252-3700

◇問合せ先： (一社)全国圧入協会 事務局 西村・森脇
Tel. 03-5781-9155 (平日9時～17時、土日・祝祭日除く)

◇ご用意頂くもの： 筆記用具をお持ちください。

以 上